



物流ニッポン

2008年(平成20年)

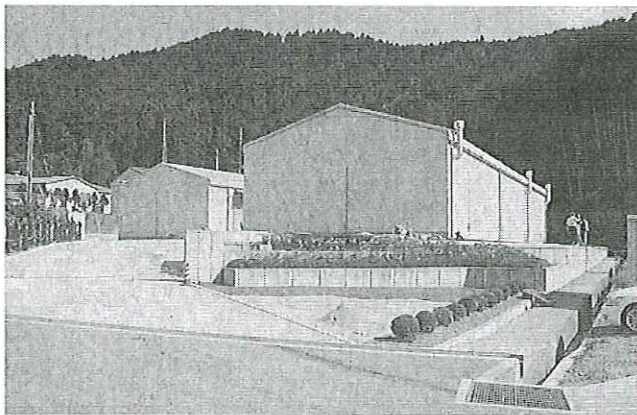
7 | 28 (月)

発行/月曜日・木曜日 第3152号

購読料/半年32,130円(月額5,355円、税込)

©物流ニッポン新聞社 2008 (昭和44年4月1日第三種郵便物認可)

危険物倉庫が竣工



石見サービス

【渡辺弘雄】石見サービス(川口武社長、兵庫県丹波市)は、水上町絹山の物流倉庫用地に整備を進めていた平屋建て危険物倉庫二棟が竣工。八月一日から営業を開始する。

普通倉庫整備も計画 常に先手、攻めの姿勢

第五倉庫は床面積三百三十三平方メートル、第六倉庫が四百九十五平方メートル。ウレタン樹脂など化学製品の危険物貯蔵所として使用する。敷地面積は一万六千五百平方メートルで、十年前に第一倉庫を稼働させており、今後も残る用地四千九百五十平方メートルに普通倉庫の整備を計画している。

同社は大手メーカー六社の化学製品の輸送、保管、構内作業などをメインに事業を展開。営業倉庫として使用する第五倉庫(左)と第六倉庫

庫の許可は一九九八年に取得した。燃料販売を手掛ける近畿コーポレーション(同)と合わせた売上高は十億円で、ことし三月には創業三十周年を迎えた。秋には記念式典を行う予定。

また、コンプライアンス(法令順守)の徹底を図るため、安全性優良事業所の認定を二〇〇四年に取得。さらに、グリーン経営認証の取得にも取

り組む。二十六日には現地で竣工式を行い、荷主や業界関係者に新倉庫を披露。事業の繁栄と安全確保を誓った。

川口社長は「荷主の要望にすぐ応えられる体制づくりが基本。その時に決まらずに、常に先手を打って準備しているよう心掛け、リスクを恐れず関係者に新倉庫を披露。では、同業他社に後れを攻めの姿勢を貫かなければなりません。荷主との信頼関係を深めていけば、は生き残れない」と話しており、事業の充実・拡張に余念がない。